

2. 脇岬のトンボロとビーチロック

| | |
|-----|-----------------------------------|
| 地 域 | 西彼杵郡野母崎町脇岬 |
| 交 通 | 長崎バス 脇岬下車 |
| 地形図 | 肥前高島 (1/50,000)・野母肥前高島 (1/25,000) |

トンボロ 野母崎町脇岬の東側の海岸は約1kmの長さで砂浜が続いている。長崎周縁では珍しく広々とした海水浴場である。この砂浜の砂を手にしてみると中粒砂から粗粒砂が多く粒は比較的良くそろっている。そしてそれらは石英・蛇紋岩・黒色片岩などに起源をもった粒で貝殻の破片はほとんど見られない。

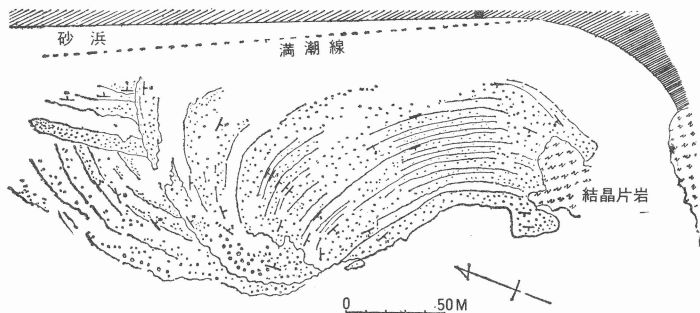
この砂州を遠見山の南斜面の高い所から見おろすと、トンボロ(陸けい砂州)であることが良くわかる。

かつては陸から離れた島として波を受けていた祇園山は、陸からのびてきた砂州によって陸続きにされてしまったのである。

この脇岬の砂州はダブルトンボロの形をとっている。すなわち、北西の方からのびてできた砂州に、東北の方からのびてきた砂州が達した形になっている。そしてこのふたつの砂州に囲まれた部分はラグーン(潟)になったのである。現在ではこのラグーンも沼沢地から畑地に変わってしまって、観音寺の南に広がった畑地となっている。

また、北西の方からのびた砂州の中ほどには縄紋前～後期を示す遺跡があり何度も発掘がなされた。

ビーチロック この長い砂州の南西の磯にビーチロックという変わった岩石がある。珊瑚礁さんごしょうのある熱帯や亜熱帯の海岸には多く見られ、時代的に非常に新しい海浜堆積岩であるが、本県などのように珊瑚礁さんごしょうのない海岸ではめずらしい。



野母崎町・棚瀬のビーチロック(協岬礫岩)

協岬のビーチロック（協岬^{れき}礫岩）は祇園山の付け根に扇形に広がったものと、そこから直線的に北へのび、砂州に平行に約 800 m 続いたものがある。

ビーチロックは普通潮間帯にあり砂浜と海水の間にある。ここの扇形のは干潮時に非常に広く現われて、広いミクロケスタ状の姿をしていて棚瀬と呼ばれている。潮が引いた時子供達が小魚を追いまわしてよく遊んでいる所である。

この岩石は良く円磨された礫が灰黄土色の石灰質泥で固められた^{れき}礫岩で、海側へ 10° 前後傾いている。厚さ10~30cmの層が幾層も重なり、ミクロケスタ状になり、扇状に走向が変化している。ビーチロックは海岸線に平行な走向をもって形成されるため、その走向は古海岸線を示していることになる。棚瀬のビーチロックの走向は現在の海岸線と異なることから、その後の海岸線の移動を知ることができる。協岬ではぜひ見たいもののひとつであるが、必ず干潮時をねらって行かなければならない。（西村暉希）